

平成18年度 第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日時：平成19年3月19日(月)13時～15時10分

場所：京都大学宇治地区総合研究実験棟 4階 遠隔会議室(HW-401)

出席者： 山岡耕春、山岸宏光、石橋克彦、岡田憲夫、鏡味洋史、真野 明(代理：有働恵子)、渡邊邦夫、真木太一(代理：脇水健次)、寶 馨、千木良雅弘、新野 宏、森脇 寛、矢守克也

オブザーバー出席：佐々恭二(前議長)、中村 誠((財)地震予知総合研究振興会)

欠席者： 辻本哲郎、石垣泰輔、堀 宗朗、田中仁史、中田節也

オブザーバー欠席： 河田恵昭(所長)、阿部浩一(文部科学省防災科学技術推進室長)

(順不同、敬称略)

配付資料：

資料1「平成18年度第2回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録(案)」

資料2「京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿」

資料3-1「北海道地区部会活動報告」

資料3-2「東北地区部会活動報告」

資料3-3「中部地区部会活動報告」

資料3-4「関西地区部会活動報告」

資料3-5「西部地区部会活動報告」

資料4「平成18年度突発災害研究等のまとめ」

資料5「防災研究フォーラムおよび見学会」

資料6「データベース関連」

資料7「河川災害に関するシンポジウム」

資料8「平成18年度予算使用状況」

資料9「京都大学防災研究所自然災害研究協議会名簿17.4.1-19.3.31」

DPRI Newsletter No. 40～43

北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol. 20

自然災害研究協議会（パンフレット）

“彩の国”市民科学オープンフォーラム—異常気象と都市洪水災害から地域を守る—資料

「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告会講演要旨集

議事に先立って、鏡味議長より挨拶があった。

（議事）

1．前回議事録の確認（資料1）

前回（10月27日）の議事録（案）を確認し、下記2つの修正を行った。

3．突発災害研究について：「千木良委員より報告があった」を「山岡委員、千木良委員より報告があった」に修正。

5．地区部会からの報告：「北海道、東北、関東、関西、九州各地区部会（中部は欠席）」を「地区部会」に修正。

2．出席者（代理）の確認（資料2）

出席者及び代理出席者の確認を行った。

3．今年度の活動状況（次年度活動予定も含む）

（1）第43回自然災害科学総合シンポジウム

寶総務担当より、10月27～28日にさいたま新都心で行われた第43回シンポジウムの概要報告がなされるとともに、シンポジウムの開催に当たっては早期にアナウンスし、ポスターを作成するなどしてシンポジウムの参加者増を図っていくことが必要であるとの認識が、渡邊実行委員長の提言として紹介された。また、第44回について寶総務担当より提案があり、9月27日に北海道で行うことを第一案とすることとした。これは、自然災害学会の行事であるオープンフォーラム（9月24日、月曜、振り替え休日）、年次学術講演会（9月25～26日）と連動しようとするものである。鏡味議長が日程や場所などについて地区部会の次期担当者（加賀屋北大教授）などと協議することとした。

(2) 人材データベース

資料6に基づいて、矢守委員より、人材データベースの概要、平成17年度まで外部に管理を委託していたシステムから、所内のコンピュータに移設した新システムの紹介、現在の登録人数(710人)、登録内容について報告があった。また、この人材データベースの登録者によるメーリングリストをH19に立ち上げることを検討する。

(3) 地区部会報告(資料3)

北海道地区(資料3-1): 鏡味地区部会長より活動報告があった。第2回幹事会・センター運営会議(12/24)、地区防災フォーラム(2/16)、北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol. 20の発刊など。H19より資料センター長は緑川光正教授、地区部会長は加賀屋誠一教授に交代する。

東北地区(資料3-2): 有働委員代理より報告があった。災害制御研究センター公開講座(10/4)、東北地域災害科学研究集会(1/13, 14)、災害に強いコミュニティのための市民フォーラム(2/25)、宮城県沖地震シンポ(3/10)、東北地域災害科学研究第43巻の発刊など。

関東地区: 渡邊部会長より、“彩の国”市民科学オープンフォーラム—異常気象と都市洪水災害から地域を守る—(11/21)の資料が配付され、その概要が報告された。

中部地区(資料3-3): 辻本部会長欠席のため、資料に基づき竇総務より報告がなされた。治水・水防災フォーラムはH18年は開催できず、H19年に繰り越し。部会長は水谷法美教授にH19より交代予定とのこと。

関西地区(資料3-4): 石垣委員欠席のため、竇総務より報告。大学生および高専学生を対象とした自然災害研究の紹介と啓蒙のための訪問講義(立命館大学10/16、愛媛大学10/27)の概要と2か年のアンケート結果が示された。

西部地区(資料3-5): 脇水委員代理より、西部地区部会研究発表会(2/17土)、「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告会(2/18日曜)、同講演要旨集の刊行(席上配付)、同報告書の発行予定(3/20)、H19年度の予定、地区部会長の交替(善功企九州大学工学研究院教授)、H18年並の予算を希望、などが報告された。

(4) 突発災害調査実施状況報告(資料4)

千木良、山岡委員より、H18に行われた課題3件について報告があった。

1) 2006年5月インドネシアジャワ島中部地震による被害に関する調査研究

(代表：川瀬 博・九州大教授、22名、1,000万円)

2) 2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究(代表：真木太一九州大教授、20名、955万円)

3) 北海道佐呂間町で発生した竜巻による甚大な災害に関する調査研究(代表：田村幸雄東京工芸大学教授、9名、600万円)

(5) 防災研究フォーラム平成18年度事業報告(資料5)

山岡委員より、3/9-10に行われた第5回防災研究フォーラムシンポジウムの概要が報告された。3/9は見学会(白鬚西地区再開発事業、扇橋閘門、東京都防災センター)、3/10シンポジウム(4部制：災害調査報告、海外における巨大災害、わが国における津波・高潮災害に対する取り組み、東京における防災・危機管理対策)。

(6) データベース SAIGAI などについて(資料6)

矢守委員より、データベース SAIGAI 入力状況、11,465件新規入力、73,155件が検索可能、H18 科研費の配分、H19 科研費は申請中であることを報告。科研費については、日本自然災害学会で申請していたのを H20 分より自然災害研究協議会で申請することに変更する。災害史料データベースは、一部に不備があるものの、13,633件が公開中。

(7) 分科会活動について(資料7)

竇総務より、河川災害に関するシンポジウム(3/6 法政大学・小金井キャンパス)が、土木学会水工学委員会と共催で開催されたことが報告された。

4. 予算執行状況について(資料8)

竇総務より、H18 予算案の表と現時点での執行状況(京大管理分)が報告された。また、中村オブザーバーより、(財)地震予知総合研究振興会の執行状況について説明があった。

5. 委員の交代について(資料9)

以下の交替が確認された。H19の交替委員(敬称略): 山岡 吉田真吾(東大地震研)、石橋 飯塚(神戸大都安C)、鏡味 加賀屋(北大・公共政策)、辻本 水谷法美(名大・工)、石垣 間瀬肇(京大・防、3号委員に回る可能性在り)、千木良 藤田正治(京大・防)、田中仁史(進退未定。退任の場合は間瀬)、新野 藤吉康志(北大・低温研)、矢守 牧紀男(京大・防)

オブザーバー交替：河田 石原和弘（京大・防、新所長）、佐々 鏡味（前議長）。

6．その他

次回（平成 19 年度第 1 回）は、委員の交代期であり、できれば4月中（4/27が候補日）に行う。

（以上）